

事業番号 2021 - 復興 - 20 - 0056

令和3年度行政事業レビューシート (復興庁)

事業名	被災ミュージアム再興事業			担当部局庁	復興庁		作成責任者		
事業開始年度	平成24年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	統括官付参事官(予算・会計担当)		参事官 伊地知 英己		
会計区分	東日本大震災復興特別会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	文化芸術振興基本法 第13条、第14条、第21条、第26条			関係する 計画、通知等	東日本大震災からの復興の基本方針 (平成23年7月29日 東日本大震災復興対策本部決定)				
主要政策・施策	地方創生			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度以 内)	東日本大震災からの復興に資するため、被災した美術館・歴史博物館の再興を図ることを目的とする。								
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	県が実施する東日本大震災で被災した博物館資料の修理、修理した資料の整理・データベース化、応急措置を施した資料を収蔵する場所の確保、被災した博物館の復興に資する事業等に必要な経費について補助を行う。(補助率1/2)								
実施方法	補助								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度要求		
		補正予算	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
		計	182	249.6	249.6	250.4	245.3		
	執行額	179	247	235.8					
	執行率 (%)	98%	99%	94%					
当初予算+補正予算に対す る執行額の割合 (%)	98%	99%	94%						
令和3・4年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和3年度当初予算	令和4年度要求	主な増減理由					
	文化芸術振興費補助金	250	244.9	-					
	職員旅費	0.4	0.4						
	その他	0	0						
	計	250.4	245.3						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 3年度	目標最終年度 -年度
	被災した美術館・博物館 (52館)の再開	被災した美術館・博物館 (52館)	成果実績	館数	35	36	38	-	-
			目標値	館数	52	52	52	52	52
			達成度	%	67.3	69.2	73.1	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	災害査定結果								
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度 活動見込	4年度 活動見込	
	補助対象事業81件(対象となる美術館・博物館は52館) における当該年度までの終了件数	活動実績	件	76	76	76	-	-	
		当初見込み	件	80	80	80	80	-	
単位当たり コスト	算出根拠		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度活動見込		
	執行額 / 当該年度の事業実施件数	単位当たり コスト	百万円	30	49.4	49.6	-		
計算式		百万円/件		179/6	247/5	248/5	-		

政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	12文化芸術の振興							
	施策	12-1文化芸術の創造・発展・継承と教育の充実							
	測定指標	定量的指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		文化庁が主催する文化財関連展覧会の来場者数	実績値	人	129,085	114,542	-	-	-
			目標値	人	175,000	175,000	200,000	-	200,000
		定量的指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		文化遺産オンラインへの訪問回数	実績値	回	2,042,900	2,401,600	-	-	-
			目標値	回	1,777,777	1,888,888	2,000,000	-	2,000,000
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	政策評価においては、文化財の適切な保存に配慮しつつ、積極的な公開・活用を行い、広く国民が文化財に親しむ機会の充実を図ることとしている。本事業においては、東日本大震災により被災した資料の修復と整理、保管施設の整備等に対する支援を通じて、被災地の美術館・歴史博物館の再興を図ることとしており、このことによって、文化財の滅失や散逸等を防ぐとともに、再び国民が文化財に親しむ環境を整えることができる。								
政策	12 文化による心豊かな社会の実現								
施策	12-2 文化財の保存及び活用の充実								
測定指標	定量的指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度	
	文化庁が主催する文化財関連展覧会の来場者数	実績値	人	129,085	114,542	-	-	-	
		目標値	人	175,000	175,000	200,000	-	200,000	
	定量的指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度	
	文化遺産オンラインへの訪問回数	実績値	回	2,042,900	2,401,600	-	-	-	
		目標値	回	1,777,777	1,888,888	2,000,000	-	2,000,000	
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
政策評価においては、文化財の適切な保存に配慮しつつ、積極的な公開・活用を行い、広く国民が文化財に親しむ機会の充実を図ることとしている。本事業においては、東日本大震災により被災した資料の修復と整理、保管施設の整備等に対する支援を通じて、被災地の美術館・歴史博物館の再興を図ることとしており、このことによって、文化財の滅失や散逸等を防ぐとともに、再び国民が文化財に親しむ環境を整えることができる。									
事業所管部局による点検・改善									
国費投入の必要性	項目	評価	評価に関する説明						
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	復興基本方針(平成23年7月29日、東日本大震災復興対策本部)に定める「⑤文化・スポーツの振興(i)被災した博物館・美術館・図書館等の再建を支援する。」に沿ったものである。また被災地・被災者からも「地域のたから」である文化財や歴史資料の修理・修復や、被災した博物館・美術館等の再建に関するニーズがある。						
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	復興基本方針(平成23年7月29日、東日本大震災復興対策本部)において方針において定められている事業であり、国として実施する必要がある。						
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	被災した文化財を修復し、後世に確実に継承していくために必要かつ優先度の高い事業である。						

事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	要項により、補助事業者は被災文化財を所有する美術館・博物館を管轄する県に限定される。国として優先的な支援が必要な事業であり、支出は妥当である。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	国が実施すべき事業として県の事業費の1/2を補助している。なお、地方負担分においては、震災復興特別交付税にて措置される予定であり、受益者との負担関係は妥当である。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	委託費等は見積もりの内容を精査した上で契約を行っており、単位当たりコスト等の水準は妥当なものとなっている。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	被災地のニーズに合ったきめ細やかな事業を実施するため、中間段階で県を経由することは合理的である。また県から市町村への支出は、人件費や委託料等において過大な支出がないことを確認し必要かつ合理的な範囲に限定している。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	事業目的に則した経費について国庫補助要項で規定し、支出内容を確認しており、費目・使途は事業目的に即し真に必要なものに限定されている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	常に優先順位と作業手順を見直しながら、効率的に事業実施に努めている。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	被災した美術館・博物館52館のうち36館が復興・再開しており、成果目標に見合ったものとなっている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	あらかじめ補助事業の対象となる県に事業計画を確認して見込みを立てており、実績も見込みのとおりとなっている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	復旧した美術館等は十分に活用されている
点検・改善結果	点検結果	被災した博物館資料の修理や美術館・博物館の再開が進んできてはいるが、その進捗度合は地域によって差がある。	
	改善の方向性	各地の状況を丁寧にヒアリングしていく。	
外部有識者の所見			
引き続き、事業の適切な進捗管理及び効率的な予算執行を行うこと。			
行政事業レビュー推進チームの所見			
現状通り	引き続き、進捗管理を適切に行い、効果的・効率的な執行に努めること。		
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
現状通り	引き続き、進捗管理を適切に行い、効果的・効率的な執行に努める。		
備考			
-			

関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年度	-		
平成23年度	-		
平成24年度	24新-17		
平成25年度	048		
平成26年度	067		
平成27年度	0065		
平成28年度	0072		
平成29年度	0058		
平成30年度	57		
令和元年度	復興庁 - 0061		
令和2年度	復興庁 - 0057		

※令和2年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



